The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ジェリー・ヨコタ先生を称えて
Author(s)	大森, 文子
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2020, 2019, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/77036
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ジェリー・ヨコタ先生を称えて

大森文子

私たちの共同研究プロジェクトは、大阪大学大学院言語文化研究科の科内研究会「言語文化レトリック研究会」における共同研究を母体としています。この研究会に長い年月貢献してこられましたジェリー・ヨコタ先生を称え、本報告書『レトリックとメディア：言語文化共同研究プロジェクト 2019』は、ジェリー・ヨコタ先生退職記念特集号としてお送りいたします。

ジェリー・ヨコタ先生は、1977 年 5 月に米国ワシントン大学を御卒業後、1981 年 5 月にミシガン大学大学院で修士号を取得され、1992 年 10 月プリンストン大学大学院で博士号を取得されました。1988 年 10 月大阪大学言語文化部講師に採用され、1995 年 4 月同助教授に昇任、2002 年 4 月同教授に昇任されました。さらに 2005 年 4 月同大学院言語文化研究科教授に配置換となり、2020 年 3 月 31 日に定年退職を迎えられました。

ヨコタ先生は、長年にわたって本学における教育に尽力してこられました。言語文化研究科ではジェンダー論の授業を担当され、有能なグローバル人材を多数育成されました。未来共生リーディングプログラムでは博士後期課程の授業を担当なさいました。英語教育では、受講学生の自己表現力の養成に力を注がれ、国連の持続可能な開発目標（SDGs）をテーマに掲げたり、ネルソン・マンデラ氏来日時のアテンド体験を紹介するなど、開かれた視野と国際的な感覚を育むという一貫した姿勢で教育に携わられました。人間教育講座、国際教養講座及び学問への扉等の共通教育科目ではジェンダーや多文化共生についての授業、「大阪大学短期留学特別プログラム（OUSSEP）」や文部科学省事業「国際化拠点整備事業」では日本文化の講義を提供されました。

ヨコタ先生の御研究は、文化の表象、特にジェンダー表象が大きなテーマとなっています。能・狂言といった伝統芸能が、国際交流、異文化間コミュニケーションのメディアとして表象され、受容される様態について研究を深められ、現代社会における伝統の意味を考究してこられました。また、米国の国立美術館で開催された能公演に携わる等、研究の実践という意味でも目ざましい活躍をされました。科学研究費補助金の助成を受けた共同研究では「ジェンダー・リテラシー」、「多文化リテラシー」とあわせて「レトリカル・リテラシー」を提唱され、文化理論、文学理論とともに認知言語学を援用され、謡曲の英訳による日本文化表象について研究されました。

このような、幅広く、多角的で、奥行きの深い御研究の成果を、ヨコタ先生は私たちの言語文化レトリック研究会に惜しみなく注いでくださいました。これまでに 3 度、御自身が発表され、「レトリックとディスクールの狭間に懸け橋を」（2009 年 6 月 20 日 第 70 回例会）、“The Power of Metaphor: ‘We Are All Islands’”（2014 年 5 月 1 日 第 92 回例会）、“Archetypal Literacy”（2017 年 11 月 2 日 第 112 回例会）というテーマで示唆に富むお話をしてくださいました。また、学生の発表に対しても数々の有益なコメントにより御指導くださいました。2016 年度には共同研究プロジェクト報告書『交差するレトリック—精神と身体、メタファーと認知』の編集にも携わられました。

バイリンガルという言葉が軽々しく使われる昨今、美しい標準米語で話され、中世日本文学を読みこなす、真のバイリンガル研究者であられるヨコタ先生は、多文化共生の鑑として常に範を示してくださいました。私たちは、32 年の長きにわたるジェリー・ヨコタ先生の本学、本研究科への多大なる御貢献に敬意を表し、深い感謝をこめてこの特集号を捧げるものです。